

KSKPコリアボランティア協会ニュース, No.30 (1998.8.13号)

コリアボランティア協会編集部編

発行:大阪 : コリアボランティア協会, 1998.8.13. ; 8,[2]p

請求記号:震災-7-z82

※震災関連記事のみテキスト化しています

<震災支援>

全国のみなさまの支えが必要です!!

全国のボランティアのみなさま、暑中お見舞い申し上げます。

被災されたお年寄り宛てに、続けて文通のお手紙を書いている全国の小中学生のみなさん、引き続き支援カンパを頂いてます全国の皆様、この夏もまた、県外から被災地を訪れている小中学校のみなさん、進学後も文通や訪問ボランティアを続けている高校生のみなさん、変わらぬご支援ありがとうございます。

震災4年目の被災地では、当協会・出張所の看板を掲げさせて頂いている神戸市長田区の西代仮設・長寿友の会(代表・長尾さん)を中心とした、地元のボランティアとの連帯の中、地域の小学校の協力のもと、いよいよ、子供たちによる「全国文通文集」の仮設や復興住宅に住まわれているお年寄りへの訪問配布の具体的な話し合いを進めています。

仮設の統廃合がすすむ中、せっかく復興住宅に移っても、1週間を待たず自ら命を断ってしまうような高齢者の方が後をたたず、今、被災地には究極の孤立化が同時に進行しています。

6/17~20の東京・横浜での「震災チャリティ美術展」において、震災を広くアピールする中、神奈川在住の県外被災者の声を聞くことができましたが、全国にも十万を超える方々が帰るすべをなくして各地に取り残されています。自助努力も限界に達し、支援を続けるボランティアも文字通り無報酬で、資金も底をつき、支援活動の継続も危機的状況に立たされています。

阪神大震災の復興は、今まで以上に全国のみなさまの一人一人の支えを必要としています。文通などのボランティア参加と支援を支える資金援助をお願い致します。

<鄭チョン>

[写真あり <震災チャリティ美術展in横浜>にて -産経新聞より- 省略]

「ほっとラインチャリティ美術展in東京・神奈川」

～やっぱり震災は風化されていました～

前号でご案内致しました巡回美術展を6月17日東京にて、19日、20日神奈川で開催してまいりました。コリアボランティア協会主催事業としての関東方面進出は初めての試みでありました。ところどころ戸惑いはあったものの、

ボランティアマインドは地域を越え余すところなく発揮され、企業、現地NPO、現地ボランティアの協力と連帯が培われたことは、私達にとって大きな自信と財産になったといっても過言ではないと思います。ところがそういう成果の喜びとは反対に、直接成果は残念な結果と言わざるを得ない有り様でした。美術作品、被災地の手作り品等の売上状況の悪さもさることながら、東京（丸の内）駅、横浜駅での街頭募金の反響のなさには全くもって驚きました。常時3人態勢、1日約5時間、4日間の募金額集計が1万5千円強だったのです。改めて現実を知らされました。もはや関心は防災にむけられているようです。阪神大震災後も世界中いろいろな所で災害が発生し、緊急救援の動きがなされています。人道的な観点から鑑みても当然のことであり、重要なことでもあります。ただ目を国内に向けてみると、解決されていない問題が山積みの被災地の現状があります。仮設住宅入居がピーク時の1/3に、復興住宅への引っ越し、まちづくりだ、コミュニティの再生だ、被災者生活再建支援法だ等、復興が進んでいるのだなあと思わせる表向きの活字が飛び交うなか、ここまで頑張ってきた被災者の方々が、くらし再建に取り残された方はもちろんのこと、復興住宅へ移転させても尚、全国の10倍以上のうつ病患者の発生や「4年目の死」が後をたたないのはなぜでしょうか。生きていける、生きていくのだという証がほしいのです。心は震災突発時より喪失感にさいなまれているのではないのでしょうか。だからこそ、この時点故にボランティアが必要なのです。被災地のことを忘れないで下さいというこの巡回事業でさえ、赤字の結果に終えざるを得なかった現状を踏まえ、改めて皆様にお願ひ致します。今まさにコリアボランティア協会の被災地支援を含めた様々な活動が、継続していけるか否かの岐路に立たされています。皆様のお力で協会を支えていただけるようお願い申し上げます。支援者の皆様の力がますます大切になっています。

最後になりましたが、巡回展に作品をご提供いただきました芸術家の方々、ご協力いただきました有志の方々に紙面をおかり致しまして、お礼申し上げます。ありがとうございました。